



安養寺便り

弘法大師が建てた安養寺門跡の理窟堂

安養寺便り
第38号
平成27年
6月吉日



今年の行事も、 はや前半をおえて！

当山では、三月のお彼岸の行事を終えるや否や、本四国詣り、四月には高野山開創千二百年法要、五月に入って、恒例の青葉祭り、と、正月、節分祭に引き続き毎月行事にご協賛、ご参加を頂いた檀信徒各位には大変なご苦勞をお掛け致しましたことを、心より感謝を申し上げますと共に、それぞれの祭行事が盛大裡に終えることが出来ましたことを、ひとえにご本尊様のご庇護の賜物と日々報恩感謝のまことを捧げずにはおられません。薫風香る中、青葉祭りの行事を終えるといよいよ後半へと差し掛かります。

六月に入りますと、別紙に御案内させて頂いておりますように、当山薬師堂の修復工事のために県と国の補助金交付の手続きに入ります。

と、同時に修復に要するに資金調達のための基金を昨年より引き続きお願いをさせて頂きたく存じ上げます。

2年目(二回目)、の御案内を同封させて頂きました。



本四国詣り結願・大窪寺

尚、一回目にて完納頂きました方々にも、御案内を同封させて頂いておりますが、悪しからず今般のご事情をお察し下さいまして、お許しを頂ける範囲でのご協賛を賜りますよう、重ねてお願いを申し上げます。

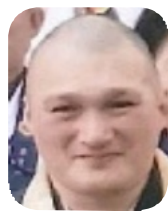
住職、合掌礼拝

弘法大師 88ヶ所霊場
東方山安養寺
520-3015
栗東市安養寺88
Tel 077-552-0082
Fax 077-552-9151
URL touhouzan-anyouji.com
E-mail to-anyouji@nifty.com



青葉祭・大般若転読

高野山開創千二百年大法会 団参を引率して



高野山団参のご案内を差し上げたところ、東方山安養寺・遍照寺の檀

信徒・御詠歌大師流慈苑講・特別に土口哲光僧正のご参加を頂き総勢二十九名にて、四月十九日朝八時半に安養寺を出発し、昼前に高野山に到着し、昼食を終えるや否や、御大師様御在世の折、高野山を御守り頂ける荒神様を毎月のお一日に月参りを欠かさなかつたという立里荒神社を、曇り空の中



高野山団参の皆様

三百段の階段を一気に登り、全員でお詣りと共に、世界遺産の最高の風景を愉しみました。

その後、総本山金剛峯寺を参拝し、秘仏である本尊弘法大師様が期間中は特別に開帳されて居り、有難く拝ませていただきました。

金剛峯寺参拝後、宿坊高室院に宿泊しました。二十日早朝六時よりの高室院朝の勤行に参列し、勤行後、大師流慈苑講のご詠歌も奉詠し、朝食後奥之院へ向いました。

奥之院の参拝は土口哲光僧正様の有難い話を伺いながら、一の橋から日本の歴史上有名人物等の多数の墓石と鬱蒼たる杉並木の参木の

二キロほどの参道を進み、途中の大石順教尼の墓前に於いての土口僧正の順教尼の崇高なる波瀾の御生涯の法話に一同感激されて居りました。

奥之院燈籠籠堂を参拝し、奥之院御廟所の御宝前に於いて般若心経・ご詠歌「修行和讃」・

「南無大師遍照金剛」を降りしきる雨も厭わず声高らかに読誦致しました。

奥之院参拝後には、高野山霊宝館に於いて、弘法大師が二十歳位で著作された御大師様真筆の国宝

「響響指帰」・恵果阿闍梨から頂かれた国宝「諸尊佛龕」・御大師様が中国から投げられ高野山に飛来した重文「飛行三鈷杵」・鎌倉時代の仏像の最高級傑作である運慶作の国宝「八大童子」と快慶作の重文「孔雀明王」をはじめとし

て沢山の宝物を拝観致しました。

昼食後、根本大塔を参拝し、大法要が行われます金堂に入室致しました。法要は十四時半より十六時まで、総本山御寺泉涌寺長老上村貞郎大僧正(げいか)を導師に、泉涌寺派末寺住職三十人余りが出仕し

「唱礼付光明三昧」法会が執り行われしました。法要の間には、泉涌寺を家元とする香道「泉山御流」の献香、華道「月輪末生流」の献花、煎茶道「竹泉流」と「東泉流」の献茶が御本尊御宝前にお供えされました。

法要終了後、金堂再建後初めて御開帳された秘仏の本尊「薬師如来」を近くにて礼拝し、直ちに帰途に付きしました。

十九日出発は雨でしたが、曇りとなり、立里荒神では最高の眺望を楽しめました。又、高野山の遅咲きの山桜や紅枝垂桜が満開で長旅の疲れも癒されるようでした。

二十日は大雨では御座いましたが、奥之院も壇上伽藍も大雨もものともせず、泉涌寺派末寺檀信徒・全国の真言宗寺院の檀信徒・御大師様を信仰されて居る人々に満ち溢れ、南無大師遍照金剛の声々が高らかに響いて居りました。

この度は高野山千二百年大法会と云う百年毎に行われる法要に東方山安養寺・龍華山遍照寺の檀信徒・大師流慈苑講の方々と参列すると云う勝縁に恵まれました事は、偏に御大師様の御恩徳と感謝申し

(前頁より)

上げて居ります。

また、特別に特別にご参加賜り、奥之院はじめ、山内各所やバスの中に於いても法話・説明・楽しいお話を頂きました、土口哲光僧正様には篤く御礼申し上げます。

遍照寺住職 合掌礼拝



4月13日道玄副住職と共に高野山日帰り詣りの皆様

引率者



安養寺執事 宮崎透

宗祖弘法大師青葉祭祭文

恭しく惟るに、東方山の靈峰は琵琶湖南の天高く聳立し、千古の青葉を繁茂し、秀容を示す。山麓の安養寺境内一円に咲き誇るシャクナゲの花の色鎮えに秘密莊嚴の園を開く。

真言宗祖弘法大師は人皇第四十九代光仁天皇宝龜五年六月十五日、讚岐国多度郡屏風ヶ浦に迹を垂れ給う。幼にして總明叡知夙く金仙の風を迎ぎ、生年、五十六歳にして夢寐毎に諸仏の蓮台に同座して大法を談義し四王為に蓋を執りて衛護せりと。求道の大志既に双葉に芬芳を兆せり。嗚呼また宜なる哉。遂に乃ち七軸の契線を大和・久米の塔下に繙きて不二一心の妙理を感得し、三千七百の海路を凌いで唐に渡り、五

部の秘蔵を青竜の壇上に稟け、真言密教の秘法を日域に弘通す。

或は国字を制定して蒼生を啓蒙し、或は工芸美術を興して日本文化を潤し・治水土木を施し道なきところに道を水なきところに水をひく。或いは産業の発展を図り、以て百生の利養を豊にすること枚挙に遑あらず。

かの如く大師の慈光は十方三世に未徒の群性を利益し隨機の教旨は広大無辺なり。時あたかも大師の数多の偉業のうち、靈峰高野山を開創され今年には千二百年を迎える。大師は御歳四十三歳、平安朝嵯峨天皇の御世・光仁七年六月十九日、朝廷に「高野山を賜わらんこと」を請う。すると早々にも七月八日に勅許を受く。

以来、高野山は「天下の修禪の道場、生身の仏・弘法大師の聖地」と宗匠、男女遠近を問わず全国津々浦々より高野詣でがとぎれずに跡を断たない。五十年、半世紀を記念して高野山全山で開創千二百年の大法会がさる四月二日より開幕。五月二十一日まで法会絵巻が繰り広げられるなか、当山安養寺では、四月十九、二十日の両日、熊谷俊亮住職の発願により開創法会参拝団が結成される。二十日、本山泉涌寺上村貞郎長老猊下が、高野山壇上伽藍の金堂において導師となり泉涌寺派僧侶出仕のもと法要を厳修。安養寺参拝団も共に参列し歡喜の法悦を合掌で結ぶ。とくに安養寺巡拝団は熊谷住職の心根の信心をたずさえ前日は弘法大師が高野山開創に当たり守護の神と

なる立里の荒神へ秘境をものとせず、また天空の高山に社をかまえる荒神社本殿を参詣。ここでは大師流慈苑講山下登美宗大梵詠らによる男女講員の朗々たる奉詠が行われた。

そして金堂での法要の前には大師入定の奥之院・祖廟でも慈苑講のご詠歌奉詠で信火は大師讃仰に燃え上る。

本日茲観音堂に稚児大師の尊像を莊嚴し大師の降誕を慶讃、その本懐と生命の尊嚴を憶念。併せて四年前、不帰の客となられた直子寺族夫人法号寂光院覺慈祥大姉位を偲んで青葉の祭典を厳修し報恩謝徳の丹誠を捧げまつらんとす。

乞い願くば宗祖大師御誓願を三念の晝に期し、末世衆生悉く慈氏の恵光に預からんことを。重ねて乞う。

即身成仏 密嚴国土 世界平和
万人豊樂 乃至法界 平等利益

平成二十七年五月十七日

京都府向日市 龜光庵住職
土口哲光敬白



ご法話の様子



青葉祭・書道展



ご案内

八月二日 孟蘭盆供大施餓鬼会

八月十日から

十五日まで 檀家さんへの棚経詣り

八月十六日

八十八ヶ所精霊送り 盆踊り大会

九月二十二日

秋季彼岸会法要

十一月八日

秋の大祭 柴燈大護摩供修行 八十八ヶ所霊場巡り

十二月三十一日

除夜の鐘

毎月一日は本尊月並祭 併せて写経をやっておりますのでご参加下さい。